

## 「私のお気に入りベスト展」

(順位 作者名《作品名》得点の順に掲載)



安藤重春《雨の華》1979(昭和54)年 岩絵具・紙 218.0×163.4cm 当館蔵

## 第1位は《雨の華》(安藤重春作)

当館は一昨年に開館20周年を迎えましたが、より市民の方々に当館コレクションを知っていただき、なおかつ興味をもっていただきたいと、今年4月22日から7月6日まで、近代の作品の中から人気投票を行いました。その50位までの結果は今年度第2回常設展示室の第1室から第3室の中で発表しました(7月13日～10月19日)。

投票してくださった方は合計591人で、候補作100点(前号で掲載)の中からお気に入りの1位から3位までご記入いただきました。そこで、1位を3点、2位を2点、3位を1点として総計した結果、第1位は《雨の華》(安藤重春作)、第2位は《フローラ》(バーン＝ジョーンズ作)、第3位は《エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像》(レイノルズ作)となりました。詳しくは次ページをご覧ください。

順位	作者名	作品名	得点
1	安藤重春	《雨の華》	183
2	サー・E・C・バーン＝ジョーンズ	《フローラ》	180
3	サー・ジョシュア・レイノルズ	《エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像》	159
4	斎藤 清	《珊瑚》	104
5	佐藤潤四郎	《オブジェ・羊車》	92
6	棟方志功	《愛染菩薩図(「雨二モ負ケズ」四韻)》	90
7	諫山麗吉	《甲州猿橋》	89
8	J・M・W・ターナー	《カンバーランド州のコールダー・ブリッジ》	77
8	中川八郎	《秋郊》	77
10	ジョン・マーティン	《フレッシュウォーター・ベイ》	71
11	ダンテ・ガブリエル・ロセッティ	《マドンナ・ピエトラ》	70
12	小林万吾	《朽葉の袖》	68
13	水田荘介	《青衣の女》	66
14	ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	《フローラ》	61
15	栗原忠二	《ヴェニス風景》	60
15	真野紀太郎	《ウェリントン植物園》	60
17	小出楯重	《自画像》	59
18	サー・フランク・ブランギン	《ヴェニス・運河》	55
19	古賀春江	《蝸牛のいる田舎》	54
19	横井弘三	《料治朝鳴氏の家族》	54
21	リチャード・ウィルソン	《キケロの別荘》	51
22	野崎華年	《富士》	48
23	オーブリー・ピアズリー	《おまえの口に口づけしたよ、ヨカーン》	47
24	北川民次	《アメリカ婦人とメキシコ女》	43
24	三木宗策	《威容抱慈(坂上田村麻呂像)》	43
26	岸田劉生	《銀座数奇屋橋》	42
26	アルバート・ジョゼフ・ムーア	《黄色いマーガレット》	42
26	青津清喜	《窓際》	42
29	石川寅治	《房総風景》	40
29	荻生天泉	《行成卿》	40
29	鎌田正蔵	《基地の風景(B)》	40
32	梶田半古	《蝶》	37
32	高橋勝蔵	《桃と葡萄》	37
32	高橋由一	《風景(鳥海山)》	37
35	ジョン・コンスタブル	《デダムの谷》	36
35	藤島武二	《「耕到天」習作》	36
37	土橋 醇	《イル・ド・フランス》	35
38	五百城文哉	《日光》	33
39	アルフレッド・ウィリアム・パーソンズ	《箱根の秋》	31
39	広瀬孝次	《田園景色》	31
41	サー・アルフレッド・イースト	《村の茶店、箱根》	30
41	黒沢吉蔵	《ガスタングのある風景》	30
41	高村真夫	《風景》	30
44	林 武	《女》	29
45	ジョン・ヴァーレー・ジュニア	《宮島の街並》	28
46	彭城貞徳	《雪景色》	26
46	山本芳翠	《園田銚像》	26
48	吉田 博	《ウィンザー城》	25
49	J・A・M・ホイッスラー	《ラルエット坊や》	24
49	中村 彝	《朝顔》	24

# 報告

## 「私のお気に入りベスト展」



### 第3位

サー・ジョシュア・レイノルズ  
《エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像》  
1777年 油彩・キャンバス  
238.9×146.8cm 当館蔵

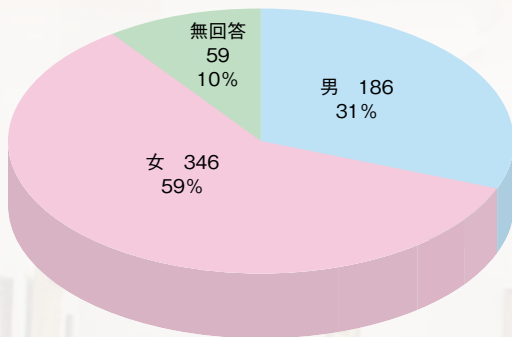


### 第2位

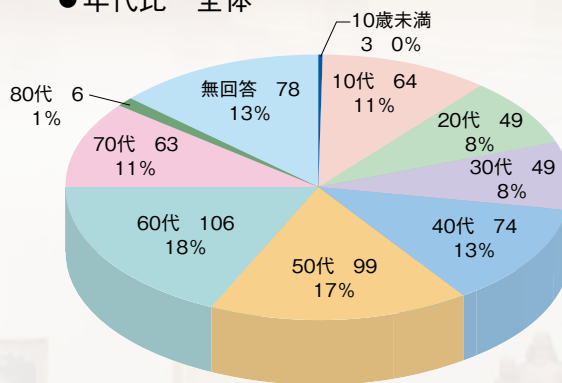
サー・エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ  
《フローラ》  
1868-84年 油彩・キャンバス  
95.5×64.9cm 当館蔵

ベスト3に選ばれた3点の票の内訳を、グラフで表しました。ベスト3の3作品が、どのような方々に人気があるのか、それぞれの作品がどのような層から支持されているのかが見えてくればと思います。

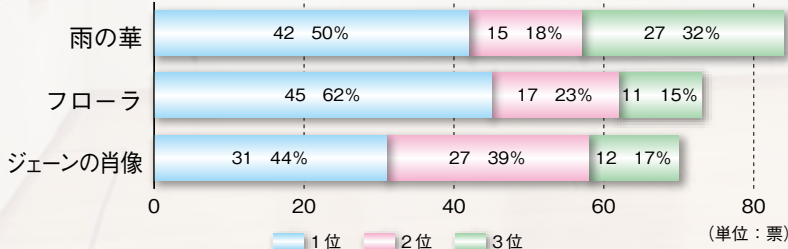
#### ●男女比 全体



#### ●年代比 全体

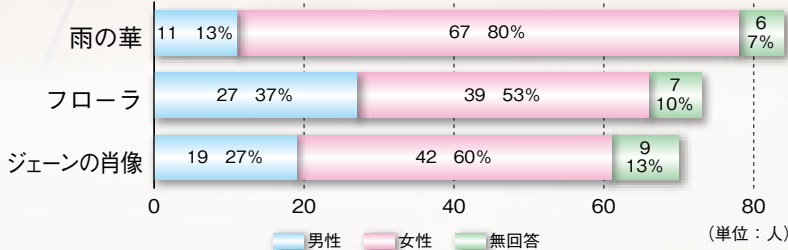


#### ●順位の内訳



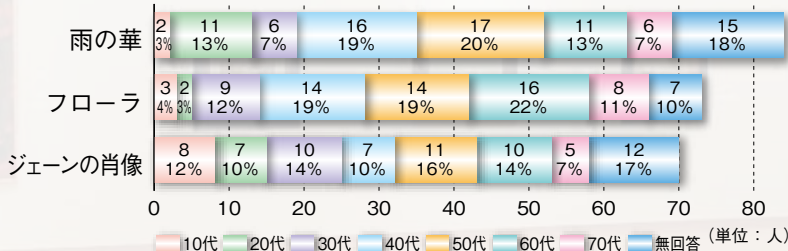
投票用紙には1位から3位まで記入されましたが、ここでは、それぞれ何位の票がいくつあったのかを見えます。1位に最も多く投票されたのは、当館看板娘「フローラ」ですが、総合ポイントでは2位となりました。

#### ●男女比



ベスト3に投票された方の男女比です。「雨の華」は8割が女性で、圧倒的に女性人気が高いことがわかります。「フローラ」は全体の男女比（円グラフ）と比較して、やや男性人気が高いようです。

#### ●年代比



「ジェーンの肖像」は、10代の得票率が他の2点の倍以上ありました。学校の見学授業で紹介される機会が多いためかもしれません。

※10歳未満と80代以上は0票のため省略

# 大判じ絵展



歌川重宣〈江戸名所はんじもの〉大判錦絵 蛇足庵蔵

11月1日(土)~12月21日(日)

休館日 毎週月曜日  
(11月3日、同24日は開館・翌日休館)  
観覧料 一般 800 (640) 円  
高・大生 500 (400) 円  
※( )内は20名以上の団体料金、中学生以下、65歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方は無料。  
主催 郡山市立美術館  
監修 岩崎均史  
(練馬区石神井公園ふるさと文化館館長)

おもに江戸時代、庶民の間で大流行した「判じ絵」。浮世絵師たちが趣向を凝らした図柄の組み合わせによって、身の回りの様々なものの名前や地名、人名などが表されています。「判じ絵」という言葉には、「推しはかって考える、考えて意味を解く」という意味があります。この言葉に由来する「判じ絵」は、浮世絵師たちの遊び心の詰まった図柄の組み合わせを、「クイズ」や「なぞなぞ」のような感覚で読み解いていくものです。同音異義語の多い日本語の特性を生かして、同じ言葉でも様々な図柄で表すことができるのです。言葉の意味とはまったく関係のない図柄の組み合わせによって表されているので、これを読み解くには柔軟な発想力と想像力が求められることになりま

す。一見とても難解に感じる判じ絵ですが、読み解き方はいくつか法則があり、ひとつひとつは単純なものです。この法則を当てはめながら、まったく関連性のない図柄の組み合わせが何を表しているのかを考えていくのです。この不思議な組み合わせによってできる、思わず笑ってしまうようなありえない状況の図柄が、判じ絵のおもしろさであり、魅力のひとつであると言えるでしょう。

その判じ絵の中には、一枚の錦絵に決められたジャンル判じ絵が複数描かれた「もの尽くし判じ物」というものがあります。絵の中に表された人物などの豊かな表情や動作の表現は、人々の興味を引き、判じる人を楽しませるだけでなく、浮世絵師自身も楽しみながら描いていたことを表し

ているように感じられます。見る人の発想力を試し、なぞ解きをさせようとする判じ絵。図柄が表している言葉を伝えようとする一方で、簡単には解けないように、絵師自身も想像力を活発にはたらかせ、遊び心溢れる図柄を考えていたのでしょう。

本展では、豊国、国貞、国芳らによる浮世絵を中心に様々な形の判じ絵を、「入門編」「地名編」「動物編」「植物・食べ物・道具編」「芸能・娯楽編」「ちよつと上級編」「南部絵巻とめくらし絵編」「謎染編」に分けて展示しています。浮世絵のほかには、屏風や暦、お経、近代資料などに見られる判じ絵的な表現などをご紹介しています。鑑賞ガイドブックを片手に、江戸以来の庶民を魅了した「目で見るなぞなぞ」の世界をどうぞお楽しみください。

(当館学芸員 新田量子)



歌川重宣〈勝手道具はんじもの 下〉大判錦絵 蛇足庵蔵

## 関連行事

- 講演会「なぞなぞ絵解き 判じ絵の世界」  
講師 岩崎均史さん(練馬区立石神井公園ふるさと文化館長)  
日時 11月2日(日) 午後2時  
場所 多目的スタジオ(入場無料)
- HANJIE: New Wave  
郡山市内の専門学校生が制作した「判じ絵」を展示します。  
会場: 展示室前ロビー
- 映画会「最後の忠臣蔵」(2010年 133分)  
日時 12月13日(土) 午後2時  
会場 多目的スタジオ(入場無料)
- 美術講座  
・判じ絵入門編  
日時 11月16日(日) 午後2時  
講師 当館学芸員  
会場 講義室(入場無料)
- ・「国芳と判じ絵」  
日時 12月7日(日) 午後2時  
講師 当館学芸員  
会場 講義室(入場無料)
- ギャラリートーク  
日時 11月9日(日)、11月24日(月・祝)、12月14日(日) 午後2時  
講師 当館学芸員  
会場 企画展示室(要観覧券)

# 舟越保武彫刻展

—まなざしの向こうに—

平成27年1月24日(土)～3月22日(日)

休館日 毎週月曜日

観覧料 一般 800(640)円

高・大生 500(400)円

※(内は20名以上の団体料金、中学生以下、65歳以上、障がい者手帳をお持ちの方は無料)

主催 郡山市立美術館 読売新聞社

美術館連絡協議会 福島民友新聞社 福島中央テレビ

協賛 ライオン 清水建設 大日本印刷

損保ジャパン日本興亜

協力 ギャラリーせいほう



図1 《聖セリア》1980(昭和55)年  
諫早石 岩手県立美術館蔵

岩手県で生まれ育った彫刻家舟越保武(1912～2002)は、静かで優しい面持ちの優美な女性像、内面に激しい精神性を感じさせるようなキリスト教を主題とした作品で知られています。ブロンズのほか、大理石や砂岩による彫像を制作し、戦後日本の具象彫刻を代表する一人となっています。

葉)がきっかけでした。ロダンへの憧れから、またそれ以上に高村光太郎の詩心あふれる美しい文章に心を打たれ、芸術家の道を歩みます。舟越は芸術において、詩情というものを美の根源であり核であるところでも大切に考えていました。エッセイストでもあった舟越の文章からは対象への真摯なまなざしが読み取れますが、それは作品においても同様であり、真つ直ぐに向き合うからこそ生まれる深い詩心が静かに、時に激しく感じられます。

優しく上品な表情が魅力的な《聖セリア》(図1)は諫早石という長崎の砂岩で作られています。多くの大理石彫刻を手掛けた舟越ですが、やがて現代の明るい照明に大理石はそぐわないと感じるようになります。そこで出会ったのがこの諫早石でした。光を柔らかく受け止める砂岩の彫刻には、沁み渡るような温かい表情が表れています。

《原の城》(図2)は、島原・天草の乱の舞台である原城を訪れた際に、討ち死にしたキリシタン武士が亡霊のように立ち上がる姿を思い描いた経験から制作されました。空洞になっている眼、気力だけで立っているような佇まいが、私たちに様々な想いを起こさせます。どこを見るわけでもない、ただそこに居る姿だけで、キリシタン一揆の凄惨さを私たちに強く訴えかけてくるようです。

晩年、舟越は脳梗塞に倒れて右半身の自由を奪われますが、残された左手で制作を続けます。「病気で苦しめられて精神的にある意味で浄化された気がする。その気持ちを夢中になってぶつけて、粘土が形に



図3 《ゴルゴタ》1989(平成元)年  
ブロンズ 岩手県立美術館蔵

なった。」と《ゴルゴタ》(図3)について述べています。それまでの作品では美しい造形の内面に深く宿っていた精神性が、不自由な左手の制作によってむき出しになって現れたのではないのでしょうか。

本展では、国内の代表的な作品を集めた彫刻約60点、未公開のものを含む多数のドローイングを展示し、舟越の生涯の制作活動を辿ります。その根底にあるのは真つ直ぐなまなざしから生まれた詩情であり、作品によってその味わいを変えながら常に見るものを引き付けるのでしょうか。静かな中にも力強い美しさを持つ舟越保武の世界をどうぞお楽しみください。

(当館学芸員 田中有沙子)



図2 《原の城》1971(昭和46)年  
ブロンズ 岩手県立美術館蔵 ※このページの写真はすべて大谷一郎氏撮影。

## 関連行事

○講演会「船越保武と祖父・萩原朔太郎の像について」

講師 萩原朔美氏(多摩美術大学教授)  
日時 平成27年2月1日(日) 午後2時～  
場所 多目的スタジオ(入場無料)

○映画会

・「殉教血史 日本26聖人、われ世に勝てり」  
(1931年 カラー 152分)  
日時 平成27年2月22日(日)、3月15日(日)  
午後2時～

会場 多目的スタジオ(入場無料)

○美術講座

・「舟越保武と《長崎26殉教者記念像》」  
日時 平成27年2月7日(土) 午後2時～  
講師 当館学芸員

会場 講義室(入場無料)

・「舟越保武の仕事」

日時 平成27年3月22日(日) 午後2時～  
講師 当館学芸員

会場 講義室(入場無料)

○ギャラリートーク

日時 平成27年1月24日(土)、2月11日(水・祝)、  
2月28日(日) 午後2時～

講師 当館学芸員

会場 企画展示室(要観覧券)

※他にワークショップも予定しております。詳しくは館内チラシ、ホームページ等をご覧ください。

# ワークショップ報告

## 「ガーデン・デザインを楽しむ」

今夏の企画展「キュー王立植物園所蔵 イングリッシュ・ガーデン」英国に集う花々」の会期中に、「ガーデン・デザインを楽しむ」と題してワークショップを開催しました。イングリッシュ・ガーデンにスポットを当てた本展では、近代イングリッシュ・ガーデンの母と称される、ガートルード・ジークル（1843〜1932）の業績が紹介されました。ジークルの庭づくりに思いを馳せながら、ガーデン・デザインをテーマに企画したワークショップには、ガーデン初心者から愛好者まで15名の参加がありました。

まずは、展覧会に合わせて美術館のエンランスに造園された「イングリッシュ・ガーデン・コーナー」前へ。講師の菊地裕美さんが、彩り豊かに美しく配された花や



ワークショップ風景

草木の前に、ジークルのガーデン・デザインのポイントをわかりやすく説明してくださいました。講師の菊地さんは、イングリッシュ・ガーデンをはじめとするガーデン文化に造詣が深く、ガーデンナーとして幅広く活躍されています。「植物を美しい絵を描くように植えることを提唱した、ジークルのカラー・スキーム（色彩設計）を取り入れるには、生長に伴う植物の変化を想像して植栽することが大切なのです」と、菊地さん。そのことば通り「イングリッシュ・ガーデン・コーナー」も、花によって開花の時期が異なったり枝葉が色づくなど景色を変えながら、スタッフの愛情にも応えるかのように、会期中多くの人々を魅了し続けたのでした。

レクチャーを受けた後、いよいよガーデン・デザインの実践です。今回試みたのは、ジークルが唱えた「対比と調和」に基づく「ガーデン・デザイン」。そのために、シルバース系、イエロー系、レッド系など色味や形に特徴のあるリーフ類や、背丈のあるラヴェンダーやサルビアの仲間、暑さに強いマリィゴールドやニチニチソウなど、手入れの行き届いた多種多様な鉢植えが、一カ所に集められました。参加者は3グループに分かれて、整然と並べられた鉢植えの中からイメージにふさわしいものを選び、花壇に見立てた角材の木枠の内側に配置していききました。「ガーデンングは、想像力をはたらかせ、植物たちの声に耳を傾けながら楽しく取り組みましょう。」菊地さんから適確なアドバイスを受けて、視線を集めるフォーカルポイントの鉢を決めたり、前後左右、隣接する

植物の色の組み合わせや高さのバランスに頭を悩ませたり…。

ワークショップの最終段階では、設置空間との「対比と調和」を意識してグループごとに美術館の前庭にガーデン・コーナーを設置しました。各グループそれぞれが、植物の配色や配置に工夫を凝らし、さらに景観との関係性を意識したことで、奥行きのある印象深いガーデン・コーナーが生まれました。時間が経つにつれてグループ内のコミュニケーションも深まり、和気あいあいと作業が進んでいきました。美術館の前庭やキャノピーに完成したガーデン・コーナーを眺めながら、みなさん大満足の様子でした。

（当館学芸員 永山多貴子）

平成26年7月5日(土)

講師 菊地裕美さん 菊地徹さん

会場 前庭  
（ガーデンデザイン森の風）



### 公開ワークショップ

「ハーブで楽しむイングリッシュ・ガーデン」

講師：瀧田勉（ハーブ研究家） 会場：階段ホール

平成26年  
8/10(日)



中通りを中心に活動していらっしゃる瀧田さんに、ハーブをはじめとした植物の特徴や庭造りなどについて実演を交えながらお話しいただきました。

### ワークショップ「命を染める 桜」

平成26年  
8/9(土)

講師：佐治ゆかり（当館館長）  
会場：創作スタジオ



三春滝桜の間伐材を用いた桜染めのワークショップでした。染色についての講義を交えて、アルミ媒染、鉄媒染により、絹のスカート2種を染めました。状態のよい染液で見事に発色しました。

# 神様になって遊ぶ、

## ジオラマづくり

### 諸星昭弘（ジオラマ作家）

ジオラマの楽しさは？と質問されたら迷わず「神様になった気分です」と答えます。

今回のワークショップ「Nゲージのジオラマをつくる」もその気分を楽しんでもらうのがコンセプトで、10月4～5日の2日間行われました。

「Nゲージ」は電源装置を使って自在に走らせることができる鉄道の模型です。精巧に



指導する諸星さん(左)

できた列車を操るのは子供だけでなく大人も夢中にさせる魅力があります。そして誰でも一度は夢に描くのが実際のような風景の中を走らせることです。

風景の模型はよく「ジオラマ」とか「箱庭」と呼ばれます。鉄道模型の世界では「レイアウト」という名称が使われます。「レイアウト」は「配置する」の意味。ジオラマを「配置」と呼ぶ理由にはこの趣味の楽しさがこめられています。それは線路や駅、木や家といった情景をつくる要素を自由に「配置」をすることで思い描く景色をつくること。景色に決まりはありません。都会でも田舎でも、日本でも外国でも好みのままです。また時間軸も自由で、懐かしい時代でも未来の風景でもよい、まさに「創造の神」になったようです。

参加者の方々にもそんな気分自由にデザインしてもらいました。いきなりデザインといっても戸惑う方もいて「うーむ」と考え込む姿に、心を鬼にして手助けをしません（笑）。みんなで同じものを作るのにあまり面白さを感じないからです。最初は悩んでいた方々も徐々に下書きが始まり、周囲の人とアイデアを交換したりしながら全員イメージが固まります。そうなれば動き出した汽車と同じ、あとは手を動かしてドンドン作るだけ



講師作品

です。

発砲スチロールの地面を削り川や丘を作ったベースの地面の色を塗ります。昼食を挟んでカラーパウダーで土や草を表現して、田んぼや畑、樹木を作って土台に張り付けます。最後に家を固定したら完成。言葉で書けば数行ですが、実際はドタバタといろいろな素材や工作技法が出てきて大変です。でも材料と格闘していくうちに、ただの板だったところに徐々に風景が形になっていきます。最後は皆夢中で仕上げていました。

出来上がった風景はどれひとつ同じものは無く参加者の個性が出ています。時間切れになるからと止めていた「トンネル」をいつのまにか作ってしまった方、畑の作物までキレイに表現した方、夢中になり丁寧に仕上げたら樹木製作が間に合わずに「枯れ木状態」になってしまった方等々、見ているだけで楽しくなります。その個性的なジオラマを全部つなげてひとつの大きな「ジオラマ作品」にするのがこのワークショップのメインイベント

ト。参加者全員の手と努力の結晶がひとつにつながった時の嬉しさと一体感はまた格別です。列車が発行すると自然と拍手が沸きました。ジオラマづくりは立体絵画のようなものだと思います。好きになったらテーマにつきることはありません。この楽しさをより多くの人に体験してもらいたいと思います。



### ワークショップ

#### 「Nゲージのジオラマをつくる」

平成26年10月4日(土)、5日(日)

講師 諸星昭弘さん  
会場 多目的スタジオ

## 公開ワークショップ

「体験！手作りカメラでフォトモンダージュ」

平成26年5月31日(土)

講師：増谷 寛さん（植田正治事務所）  
会場：創作スタジオ



「ロベール・ドアノー写真展」にあわせて、タッパーウェアなど身近な素材でカメラを作成し、印画紙を装着させて撮影・現像を行いました。カメラの基本的な仕組みを学びながら、最終的に参加者それぞれが個性ある合成写真を制作できました。

## 講演会「ロベール・ドアノーの世界」

平成26年6月1日(日)

講師：堀江敏幸さん（仏文学者・作家）  
会場：多目的スタジオ



「ロベール・ドアノー写真展」にあわせて、彼の作品について、その優れた言語感覚などにも触れつつ、家族とのエピソードを織り交ぜてお話いただきました。聴講者の中には堀江氏ご自身のファンの方々も多く、質問なども充実したものでした。

## ミュージアム・コンサート

「美しきチェロの調べ サマー・ガーデンに寄せて」

平成26年7月13日(日)

出演：横坂 源さん（チェロ）  
魚谷絵奈さん（ピアノ）  
会場：階段ホール



新進気鋭のチェリストである横坂さんをお招きし、開催中の「イングリッシュ・ガーデン」の世界を音楽で楽しみました。なじみ深い楽曲に加え、超絶技巧を見せ場とするような曲目を交えたプログラム構成と、迫力ある演奏に観客の皆さんは魅了されたようでした。

## 第13回風土記の丘の美術展 郡山市内の小学生による作品展

平成26年7月21日（月・祝）

～8月24日(日)

会場：展示ロビー  
主催：郡山市立美術館  
郡山市小学校造形教育研究会



郡山市内の小学生が授業で制作した作品を、地域ごとに週替わりで展示しました。子どもたちの素直な気持ちが表現された印象深い作品が数多く出品されました。

## 夏休み公開ワークショップ 第9回 風土記の丘発 図工&美術の時間へようこそ！

平成26年8月2日(土)

会場：多目的スタジオ  
講師：郡山市内の小中学校の先生方



今年も開催された、現行の図工と美術の授業内容を体験するワークショップ。会場内に設けた様々な屋台と遊びのコーナーは、自由参加で終日大勢の人でにぎわいました。

## 「ガーデン写真大募集」

平成26年8月12日(火)～24日(日)

会場：企画展示室前ギャラリー



企画展「イングリッシュ・ガーデン」の関連イベントとして、一般からガーデン写真を募り、展示しました。合計32点の応募がありました。自宅の庭はもちろん、旅行先で撮影されたものなど、バラエティに富んだ魅力的な写真が集まりました。

## 講演会

「キュー王立植物園と植物画の歴史」

講師：大場秀章さん（東京大学名誉教授）

平成26年8月17日(日)

会場：多目的スタジオ



企画展「イングリッシュ・ガーデン」の講演会として、同展監修者である大場秀章さんをお招きし、キュー王立植物園の歴史と今日に至るまでの活動や植物画の発達などについてお話いただきました。

## 朗読会

出演：菅佐原隆幸さん（FCTアナウンサー）

平成26年9月28日(日)

会場：多目的スタジオ



アナウンサーとして福島県内の方々にはおなじみで、「乗り物マニア」としても知られる菅佐原さん。「絵本原画展 きかんしゃトーマスとなかまたち」にちなみ、蒸気機関車についての楽しいお話をささみながら、美しい日本語でトーマスの絵本を朗読していただきました。

## トーマス in ふれあい科学館 鉄道ジオラマ

平成26年9月6日(土)～10月3日(金)

会場：郡山市ふれあい科学館展望ロビー



郡山市ふれあい科学館では、郡山市立美術館で行われた「絵本原画展 きかんしゃトーマスとなかまたち」の同時イベントとして、「トーマス in ふれあい科学館鉄道ジオラマ」を開催しました。同館の日本最大級のNゲージ鉄道ジオラマでトーマスが元気よく走っていました。

常設展示

■平成27年2月1日(日)

展示室1 英国風景画の巨匠ターナー

展示室2 近代日本の美術

展示室3 秋山泰計からくり世界

展示室4 岸田劉生とその時代

くまのこを彩るデザイン

■平成27年2月4日(水)

展示室1 描かれた理想と幻想の世界

展示室2 みづゑの魅力

展示室3 郡山ゆかりの美術

展示室4 英国キリスト教美術

仏足跡と祈りの造形

※平成27年2月3日(火)は、展示替えのため常設展示室はご覧になれません。

第7回風土記の空

郡山市内の中学校美術部・

選択美術による作品展

会場 〇〇ビー(無料)

会期 11月11日(火)～12月21日(日)

美術部や選択美術で制作した郡山市内の中学生による作品展です。

みずみずしく、若さにあふれた作品を、中学生自身が額装し、美術館〇〇ビーに展示します。

お子様たちの学校でのひとつの成果としても、ぜひご覧ください。



昨年の額装作業の様子

平成26年度 〈アート・テーク〉

「アートに触れる」「アートを掴む」「アートから捉える」。アートとは、本来は、自然に対置される人間の技能、その結果としての人工物などを意味する言葉です。いわゆる美術に限らず、日常生活に点在する様々な物、事象を、改めて人との関わりに注目して取り上げています。

報告

第1回「色の命、命の色」

特別講師：志村ふくみさん(染織家・人間国宝)

志村 洋子さん(染織家)

日時：5月24日(土) 午後2時から

会場：多目的スタジオ

作品を展示した会場で、自然界の豊かな色と日本の色について、お話しいたきました。



志村ふくみさん(右)と洋子さん

第2回「想像する力 チンパンジーが教えてくれた人間の心」

特別講師：松沢 哲郎さん(京都大学霊長類研究所教授・文化功労者)

日時：7月26日(土) 午後2時から

会場：多目的スタジオ

言葉はなくとも、深い絆で結ばれた「進化の隣人」チンパンジーを通して知りえた氏の研究についてお話しいたきました。



第3回「知のかたち 大学博物館編③東北大学」

講師：佐治ゆかり(当館館長)

日時：9月27日(土) 午後2時から

会場：講義室

第4回「人形(ひとがた) 文楽の魅力」

講師：桐竹勘十郎さん(人形遣い) 他

日時：11月30日(日) 午後2時から

会場：多目的スタジオ

〈アート・テーク〉  
今後の予定

第5回「知のかたち

—大学博物館編④北海道大学

講師：佐治ゆかり(当館館長)

日時：平成27年1月31日(土) 午後2時から

会場：講義室

第6回「知のかたち

—大学博物館編⑤九州大学

講師：佐治ゆかり(当館館長)

日時：平成27年3月21日(土) 午後2時から

会場：講義室

※第5回、第6回の参加は無料です。

美術館のカフェ juju 130 cafe

(ジュジュ イチサンマル カフェ)

本日のケーキセット(¥800)

ティータイムにおすすめのケーキと生クリーム・季節のフルーツを添えたプレート。

ガトーショコラ(写真)はベリーが練り込んであり、しっかり濃厚でありながら後味がさっぱりとしたオリジナルレシピ。

他にチーズケーキやシフォンケーキなど、日によって焼きたてケーキをお楽しみいただけます。

豊富な種類のお飲み物とセットでどうぞ。

特に今冬限定のアップルシナモンミルクティーがオススメです。

営業時間 11:00-17:00 電話 024-942-2250



T O P I C S

年末年始と  
臨時休館のお知らせ  
平成26年12月28日(日)から平成27年1月19日(月)まで、館内消毒及び年末年始のため、全館休館となります。